

これまでのまとめ

第3回緩和ケア専門委員会提出資料（江口）

◆地域連携に基づくがん緩和ケア関連項目

・・・引用元：がん対策推進基本計画 中間報告 H22年6月より

（目標）患者家族の苦痛軽減と療養生活の質の向上 「すべての」

（進捗）がん医療の均てん化を目的とした医療水準等調査事業

QOL 評価尺度の開発

遺族調査 患者アンケート調査

（今後） 連携 グリーフケア 経済的負担軽減

（目標）すべてのがん診療医師に基本的緩和ケア研修

指導者講習会

専門的緩和ケア研修

（進捗）研修会実績

（今後）研修会のアウトカム評価と実地研修、研修義務化、

（目標）専門的緩和医療スタッフ配置と地域連携

（進捗）拠点病院、緩和ケアチーム

（今後）2次医療圏毎に、在宅緩和ケアも含め、地域連携の多職種スタッフ育成 アウトカム指標活用

（目標）在宅医療

（進捗）医療法で4疾病医療体制を規定 連携医療組織構築中

（今後）在宅医療の質の評価 がん拠点診療所 地域連携クリティカルパス
医療体制のコオーデイネート アウトカム指標

（目標）2次医療圏に相談支援センター

（進捗）拠点病院の無い医療圏

（今後）相談支援 地域のがん患者家族の支援 ピアサポートやサバイバー支援

◆がん緩和ケア関係事項の抜粋

・・・引用元：「平成 23 年度がん対策に向けた提案書」がん対策推進協議会（取りまとめWG）H22 年 3 月 11 日より

検討された項目

切れ目のない進行期のがん療養のためのアクションプラン

がん専門療養病床の活用事業

がん診療に携わる医療者の基本的緩和ケア研修

実習による緩和研修

緩和ケア地域連携のための IT ネットワーク

実施されている緩和ケアの質的な評価指標

緩和医療外来の充実

医科大学における緩和医療学講座の整備

在宅ケア医師ネット展開事業

在宅関係スタッフの教育研修

在宅をサポートする緊急入院病床

在宅緩和ケア診療所ネットワーク

介護施設における看取り体制整備

地域における関係者間の合同カンファレンス

上記関連の診療報酬・制度面の課題

緩和ケア加算 緩和ケア研修修了者の配置 緩和ケア病棟入院料など

在宅医療関連 合同カンファ、パス紹介 在宅緩和ケア診療ネットおよび従事者

専門医標榜科・配置 医療法、医師法改正

医療スタッフ 保助看法、薬剤師法改正

麻薬および向精神薬取締法改正

医業等に関する広告可能な事項に関する省示改訂

介護保険法改正

文責江口

緩和ケアQI一覧

初期評価

1 疼痛のスクリーニング

がんと診断された患者数

診療録に疼痛の有無、もしくは程度の記載がある患者数

2 入院したがん患者に対する疼痛の評価

がんの治療のために入院した患者数

診療録に疼痛の有無もしくは程度の記載がある患者数

3 定量的スケールでの疼痛評価

がん疼痛にオピオイドを開始する患者数

診療録に疼痛の定量的疼痛スケールによる程度の記載がある患者数

4 オピオイド開始時の疼痛評価

新たにオピオイドを開始する疼痛があると認められた患者数

診療録に、
①疼痛の1日の変動パターン
②増悪・軽減因子
③疼痛の性状
の中の1つ以上の評価の記載がある患者数

5 疼痛の原因評価

疼痛が新たに認められた患者数

診療録に疼痛の原因評価の記載がある患者数

疼痛マネジメント

6 中等度以上の疼痛に対するオピオイド使用

オピオイドを使用しておらず、非オピオイド系鎮痛薬を使用しており、中程度以上の疼痛が2週間以上持続した患者数

オピオイド系鎮痛薬が投与された、または投与されなかった理由の診療録への記載がある患者数

7 患者教育

疼痛に対してオピオイドを開始した患者数

開始時の教育提供と教育についての診療録記載がある患者数

8 疼痛時のレスキュー薬処方

長時間作用型オピオイド処方を開始した患者数

「疼痛時」の短期作用型オピオイドが処方されている患者数

9 便通対策の指示

外来において定期的オピオイド処方を開始した患者数

便通対策が処方・指示された、または処方しない理由の診療録記載がある患者数

10 疼痛に対するフォローと対応

入院中に中程度～重度の4時間以上持続する疼痛を訴えた患者数

疼痛対策（薬の増強・レスキューの使用）が行われた、行われなかった理由の診療録記載がある患者数

治療効果のフォローアップ

11 外来での疼痛のフォローと対応

① 外来においてオピオイドを新しく開始した外来患者数

② 医師・薬剤師・看護師によって、効果・副作用・服用の継続に対する確認がなされていることの診療録記載がある患者数

12 入院患者に対する疼痛のフォローと対応

① 入院中にオピオイドを新しく開始した入院患者数

② 医師・薬剤師・看護師によって、効果・副作用・服用の継続に対する確認が3日以内になされていることの診療録記載がある患者数

13 レスキューの効果評価

① 疼痛に対してレスキューを用いた患者数

② レスキューの効果評価の診療録記載がある患者数

14 重度の疼痛に対する鎮痛治療の変更

① 入院中1時間以上持続する重度の疼痛への鎮痛治療を変更した患者数

② 疼痛軽減の有無の診療録記載があり、かつ、それが12時間以内である患者数

15 鎮痛方法の変更

① 2週間継続する中等度以上の疼痛もしくは鎮痛薬の有害作用が確認された入院患者数

② 鎮痛方法が変更された、もしくは変更のない理由の診療録記載がある患者数

難治性疼痛、副作用、依存症などにおける治療の調節

16 疼痛に関する専門スタッフへの紹介

① 疼痛に対する薬物治療を1ヵ月以上しているにもかかわらず、疼痛の訴えが続く患者数

② 疼痛に関する専門スタッフにコンサルトされた患者数

17 骨転移に対する放射線療法

① 骨転移、および疼痛があるとわかっており、1ヵ月以上放射線療法以外の治療が行われており、かつ、その1ヵ月後の時点で、疼痛が続いている記載のある患者数

② 放射線照射や放射性薬物による治療が提案された、もしくはされない理由の診療録記載がある患者数

18 オピオイドによる呼吸抑制

① オピオイド投与を受けており、3日以上連続して眠気を訴える、または意識状態の変化がある入院患者数

② 眠気の初回記載日から3日以内に、呼吸状況の観察結果の診療録記載がある患者数

19 モルヒネの禁忌

① 外来でオピオイドの定期服用を開始した腎機能障害のある外来患者数

② モルヒネを選択しない患者数

意思決定

20 鎮静に対する意向

① 持続注射を用いた鎮静を開始された患者数

② 患者・家族の意向の診療録記載がある患者数

21 治療に対する意向

① 根治不能ながんがあることが新たにわかった患者数

② 治療に関する希望の診療録記載がある患者数

22 治療に対する説明

① 根治不能な進行がん患者が新規の化学療法を開始した患者数

② 根治を目的とした治療ではないことの説明がなされ、その診療録記載がある患者数

23 治療計画の決定と患者の意向

- ①：新規の血液透析
②：ヘースメーカーまたは除細動器の埋め込み
③：全身麻酔を伴う手術
④：経腸的人工栄養
のいずれかが行われた進行がん患者数

直前1ヵ月以内の診療録で当該治療希望の記載がある患者数

24 退院調整

オピオイドによって疼痛が安定しており、退院希望発言の記載のある入院患者数

3日以内に退院調整が開始された患者数

適切な説明・情報提供

25 がんについての告知

がんと新たに診断された患者数

1ヵ月以内の説明、または説明がない理由の診療録記載がある患者数

26 がん再発についての告知

がんの再発が診断された患者数

1ヵ月以内に再発事実が説明された、または説明がない理由の診療録記載がある患者数

27 がん再発後の病状説明

がん診断、再発診断を受けた患者数

告知から1週間以内の病状説明、または説明がない理由の診療録記載がある患者数

28 再発がんに対する化学療法の治療目標、合併症の説明

再発がんへの化学療法を受けた患者数

治療目標、予測される合併症の説明があったことの診療録記載がある患者数

診療の質指標 Quality Indicator

平成21年3月

編集 祖父江 友孝、東 尚弘

発行 厚生労働省・がん臨床研究事業

「がん対策における管理評価指標群の策定とその計測システムの確立に関する研究」班